



ナザブ空港の完成予想図

## パプアニューギニア ナザブ空港整備着工

オリエンタルコンサルタンツグループが詳細設計などを担ったパプアニューギニアの「ナザブ空港」で、7月30日に建設プロジェクトが始まった。同国第2の都市、レイ市にある同空港で既設滑走路の改修や旅客ターミナルビルの新設などを実施。輸送力を強化し増加傾向にある旅客需要に対応する。2022年の供用開始を目指す。

ナザブ空港整備事業は政府開発援助（ODA）有償資金協力の本邦技術活用条件で実施している。発注者は現地の空港公社。オリコンサルグローバル・梓設計が詳細設計や入札支援業務、施工管理

### オリコンサルグローバルら詳細設計

業務などを受注した。

同国北部にある同空港は旅客数が2番目に多い。ただ完成から40年以上が経過し施設は老朽化していた。プロジェクトでは滑走路（延長2438m）の拡幅・舗装強度強化、旅客ターミナルビル（S造2階建て延べ約1万700平方m）などの新設を計画。誘導灯の増強、空港用化学消防車の導入も予定している。

総事業費は322億46百万円を見込む。施工は大日本土木・NIPPONが担う。現地で開かれた起工式にはジェームズ・マラペ首相、グレ民間航空相、中原邦之在パプアニューギニア特命全権大使ら関係者が出席し、工事の無事完成を祈った。